

ひろしま輝ナース

そのひとらしさをささえる。

だから、訪問看護。



◆ Contents ◆

01 特集 ナース&医師に聞く在宅医療のこれからの姿 ～地域の暮らしと訪問看護を考える～

Practical Example

- 03 訪問看護ステーションおおさき
- 04 ほっと・はあとステーションでのひら
- 05 NPO法人訪問看護ステーションうさぎ
- 06 小椿クリニック
- 07 庄原市立西城市民病院西城訪問看護ステーション
- 08 北広島町雄鹿原診療所

How to

- 09 訪問看護のノウハウ集
 - ①はじめるコト ②人財のコト
 - ③リーダーがするコト

Message

訪問看護でこんないいコトありました♪

今を生きたい人のための訪問看護

Q 中山間地域の医療や訪問看護の強み弱みとは？

サービスの選択肢が多い都市部と違い、中山間地域の医療体制の充実度は地域住民にとって安心そのもの。特に訪問看護は、入院時の方だけでなく柔軟な対応力でケアしきれない人をつないで、人々の今の生活が続くことに貢献します。一方で、身近に医師や看護師がいるとつい頼りたくなるのが住民。中山間地域にはすでにソーシャルキャピタル（人々の支え合い）があり、人々は自らの意思で生活を支え合っています。訪問看護サービスという事業の前に、これを尊重した医療であるべきと考えます。ソーシャルキャピタルという地域の強みと、ケア力、生活応援力という訪問看護師の強みを掛け合わせることができたら素敵ですね。

Q 中山間地域で活躍できる訪問看護師を育てるには？

外来や入院での経験はあっても初めて在宅を担う看護師にとって、「ひとりで責任を負えるだろうか」という大きな不安があります。また都市部での業務経験はあっても中山間地域は初めてという人も同様に、「知らない地域の在宅支援の仕事に飛び込んだら一生このままなの？」という漠然とした不安があります。そこをうまくサポートできるというのではないのでしょうか。中山間地域の多い広島ならではの独自のプログラムやモデル的な取り組みをテストしていくのもありですね。例えば、小規模病院での病棟看護1年、診療所の外来看護1年、都市部での訪問看護1年の後、中山間地域での訪問看護2年などのプログラムを作ってみるとよさそ

Q 今後の新しい訪問看護に期待することは？

すでにアメリカなどでは一定レベルの診断や治療などを行うことができる「Nurse Practitioner（ナース・プラクティショナー）」という看護の資格があり、医療現場で活躍しています。医師のサポートのもと活躍する中山間地域の訪問看護師は、日本版ナース・プラクティショナーといえそうです。外来と入院のある当院でも、訪問看護をスタートする予定です。外来と入院を知っている人が在宅を知っていると、看護師としてワンランク上にステージが上ります。病気だけでなく生活も見る訪問看護師は、地に足をつけて今を生きていると実感できる素晴らしい職種です。勇気を出して一歩踏み出し、地域と本人が輝く訪問看護が増えることを期待しています。

ナース & 医師に聞く

在宅医療の姿

地域の暮らしと訪問看護を考える

島しょ部といった過疎地に存在していることをご存じですか。難しさがある在宅医療の空白地域に、ばよいのでしょうか。庭医療専門医)の横林先生と、ニティナース」という、と普及を目指す矢田さんに、方と在宅医療のて、お聞きしました。

広島県内の中山間地域や訪問看護がない地域がまだまだ住み慣れた地域で暮らし続けることの医療はどう向き合え家族丸ごと何でも診る専門医(家島根県雲南市で「コミュニティナース」という、方と在宅医療のこれから姿につい

看護師という職種と在り方

Q 「コミュニティナース」とはどんな仕事？

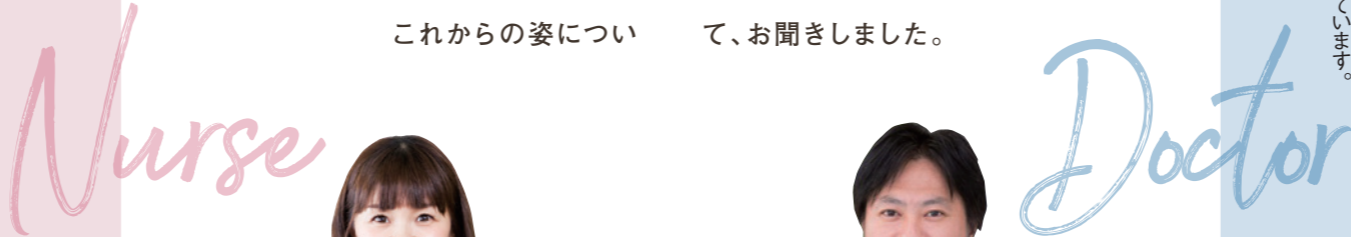
コミュニティナースは、病院や福祉施設、訪問看護に従事する看護師と異なり、地域の中で住民とパートナーシップをつくりながら、その専門性や知識を生かして活動する医療人材のこと。現在は位置づけが曖昧です。日常的に街の中や暮らしの中にいて、人々が楽しいと感じたり元気になるたりすることを応援する、医療や看護の知識・技術を持った人。一人で何かをやるのではなく、まちの人や医療関係者とチームをつくり動く地域医療の担い手、看護師の新しいワークスタイルとして、スタートしました。コミュニティナースは、「職種」ではなく、むしろ「在り方」だと考えています。

Q 島根県雲南市での活動はどのように？

元気なうちに医療・看護の方々との接点が普段の暮らしの中であればいいのに、と自ら看護師を志し、雲南市で仲間と二緒に訪問看護の立ち上げも行いました。当初、運営はとでも大変でした。地域住民の声を聞いて歩み二一ズをつかもうとしました。すると親しくなった地域住民が「この人、見てやって」と紹介してくれるようになったりして…。ありがたいですね。そして、雲南市立病院はじめ医師が中心になって支えてくれて助かりました。また雲南市合併前の元掛合町長だった「よっさん」こと影山喜文さんが、地元の多くの医療機関や地域団体に紹介してくださっ

Q 医療資源の少ない中山間地域。これからの取り組みは？

看取りも増えてきましたね。安心して看取りを迎えるために、何よりも地域に看取りを公開することが大切だと思っています。その日々の姿を見せ、看取った後の対話の機会をつくり、学びや気づきをシェアしていくこと。これは看護師という職種としてではなく、その人と関わりがあった地域住民が、のりしろになって広がってくれて、そして住む人の番近くにいる存在がちよっとお節介な看護師だったらいいなあと思っています。



Community Nurse Company 株式会社
代表取締役 矢田明子(やたあきこ) 看護師



医療法人ほ一むけあ ほ一むけあクリニック
院長 横林 賢一(よこばやしけんいち) 医師

[連絡先]
Community Nurse Company 株式会社
〒693-0011
島根県出雲市大津町2103-2
http://community-nurse.jp/

[経歴]
島根県出雲市出身。26歳のときに父の死を経験し、看護師を目指して27歳で大学へ入学。島根大学医学部看護学科を卒業後、保健師取得。2014年、人材育成を支援する「NPO法人おっちらぼ」を立ち上げ、代表理事に就任。2016年5月より「コミュニティナースプロジェクト」でその育成やコミュニティナース経験のシェアをスタート。2017年4月に「Community Nurse Company株式会社」を設立。同年12月、「日経WOMAN」より「ウーマン・オブ・ザ・イヤー2018」を受賞。「Community Nurse Company株式会社」代表取締役、「株式会社コミュニティケア」取締役、「NPO法人おっちらぼ」副代表理事、雲南市立病院企画係保健師。2019年2月、「コミュニティナース—まちを元気にするおせっかい」焼きの看護師」が木案含より刊行。

[経歴]
広島大学医学部卒。麻生飯塚病院、北部東京家庭医療学センター、広島大学病院講師、ハーバード大学公衆衛生大学院などをへて、現在、ほ一むけあクリニック医師、広島大学医学部臨床教授として地域医療に取り組み。病気があってもなくても気軽に立ち寄れるコミュニティカフェ「Jaroカフェ」を併設し、「まちの保健室」「ケアラサロ」「こども食堂」などの活動を通じて住民の健康と笑顔に貢献している。家庭医療専門医、在宅医療専門医、医学博士。

[連絡先]
医療法人ほ一むけあ
ほ一むけあクリニック
(内科・小児科・皮膚科・在宅訪問診療)
〒730-0048
広島市中区竹屋町 8-8
TEL.082-546-0185
FAX.082-546-0183
http://hcare-cl.asdxasd.com/



◆**新卒看護師をOJTで即戦力に**
島のステーションが活性化

豊田郡 訪問看護ステーション

訪問看護ステーションおおさき

吉屋 寿則 看護師

(中央) 吉屋寿則看護師と先輩たち

島にきた看護師は、新卒！男性！

「訪問看護を希望している学生がいる」と大学から連絡があり、にわかには活気づいた訪問看護ステーションおおさき。新卒の受け入れに戸惑いはなかったのでしょうか。「ここ大崎上島町は人口の少ない島だから、ゆっくり育てていければいい」と受け止めたと言います。その後、男性だと聞かされ正直驚いたものの、本人のやる気があればみんなはサポートできるだろうと話合いました。

その男性は、もともと地域ケアに関心があった吉屋寿則看護師。学生時代には島内のサロン活動に参加したり、高齢者の健康チェックをする活動から一人ひとりと会話する中で丁寧に接することを体験し、やりがいを味わっています。訪問看護の現場に同行したことが契

機となり、島生活では欠かせない自動車普通免許を取得、移住しました。新卒者の多くは病院や診療所に就職し、訪問看護を第一選択とするのは極めて稀です。経験値が必要な訪問看護で、新卒者とのように関わっていったのでしょうか。

ともに創るOJTで即戦力化する

吉屋さんは採用が決まると訪問看護の情報収集や新卒訪問看護師の会へ参加するなどの準備をしました。ステーションでは育成研修会への参加や体制を整えるなど受け入れの準備をして4月を待ちます。入職1年目の育成方法は、やるべきことを具体化すること、日々の丁寧なOJTでした。訪問看護の実際を学ぶため、先輩について現場同行を続け、点滴の抜針や処置の実際



◆**現場を知り尽くした訪問看護師たちのあらたなチャレンジ!**
今までの新しい訪問看護を多く仲間たち

呉市 訪問看護ステーション

ほっと・はあとステーションでのひら

管理者 越部 恵美 看護師

(左) 統括所長 松井富子看護師 (右) 管理者 越部恵美看護師

管理者業務を追求する

訪問看護20年以上のキャリアをもつ越部恵美さんは、訪問看護師の先輩の松井富子さんとともに、念願の訪問看護ステーションを開設しました。看護師として勤務するころから「いつかは必ず訪問看護を」と心に決めていたと言います。二人は「私たちのステーションをやりましょう」といつともなく語り合い続け、新しい事業所が生まれた瞬間のことは今でも鮮明に覚えていると言います。

開設にあたって、訪問看護業務はもちろん、訪問看護管理者経験が大変役に立ちました。関係機関との連携方法や新たな利用者獲得の働きかけなど、戸惑うことがなくスムーズでした。だからこそ、丁寧に管理者業務にあり、ときに俯瞰することができると言います。

管理者業務の難しさは、採算と医療人としての視点のバランスをどう取るか。心掛けていることは、日々利用者のケアを進めながら、同時に労務管理や財務管理、関係機関との距離感を取りながら方向を示すこと。それにはひとり力では不十分なことがあるので、チームの力が必要です。

問題を提起して揺さぶりかける

「島がね、気になります」。2040年の在宅生活をどうするかというより、すでに島しょ部では在宅医療は今すぐの問題、放つてはけません。

事務所のある広から見わたす安芸灘とびしま海道によって、下蒲刈島、上蒲刈島、豊島、大崎下島、能美島や芸予諸島が橋で結ばれ、

などの看護技術や記録の書き方、訪問のマネーなどを身に付けていきます。週2回、法人併設の通所介護事業所でバイタルサインの測定や処置を通じて、コミュニケーション能力を磨いていきました。

次に、安定した在宅療養のできる利用者へ単独訪問を開始します。現場では「知っている」「知識を「できる」実践にするために、必要な技術の習得を重ねていきました。初めての看取りにはエンゼルケアを担いました。やがてオンコール当番も開始して24時間対応を学ぶなど、先輩のバックアップを得ながら守備範囲を広げていきます。

OJTのポイントには、一つひとつの訪問に支援の目的や気を付ける点などをあらかじめ共有して向かい、訪問後はどうだったのか、疑問の解消などを振り返るといった繰り返し。利用者宅への道中10〜20分程度の時間を使って、先輩は吉屋さんを指導し、吉屋さんは質問するなど、事例から学ぶことを積み重ねます。同時に、OFF・JITとして外部研修の参加を通じて学習の定着を図ります。自身で工夫してマニュアルを作成することで、業務の振り返りや全体像を把握でき、能力向上につながっているようです。さらに、職場内外で発表の機会があることで、成長度合いの確認もできています。

手の届く目標を共有する

人は、少し先の人生の見通しがあれば行動します。吉屋さんは、自ら訪問看護師としてキャリアビジョンを決め、同時に職場でもそ

本土と30キロ先の島しょ部がつながりました。行き来する人々の声が聞こえる広にいと、退院して安心して家に帰りたいと願う住民の声に耳に入ってきます。島には、医療機関はあるものの、24時間体制で訪問看護を提供する事業所がありません。住民はいざというときの頼れる医療が遠方にしかない不安がよぎり、自宅に戻れることをちゅうちょします。しかし、呉市の訪問看護が出向くには移動時間がかかり、橋の往復の通行料金の利用者負担もあり、ついためらわれます。

こうした中山間地域や島しょ部の訪問看護空白地帯では、医療資源の整備と同時に、医療機関や地域住民の工夫も必要です。そのために、越部さんは地域の医療機関や専門職への研修会、地域住民との交流会などへ、安心できる在宅生活を一緒に考える勉強会として出かけ、今起きていることを伝える活動しながら問題提起をしています。「このままでいいのか」と揺さぶりをかけると、住民の声が上がり、必ず何か動きだそうという機運になると言います。

新しい訪問看護師

訪問看護師が本来の看護業務と同時に、地域の未来をどうつくるべきかと住民に働きかけるといふ新しい姿。それを担う看護師の育成に今すぐに取り組むべきと考えます。

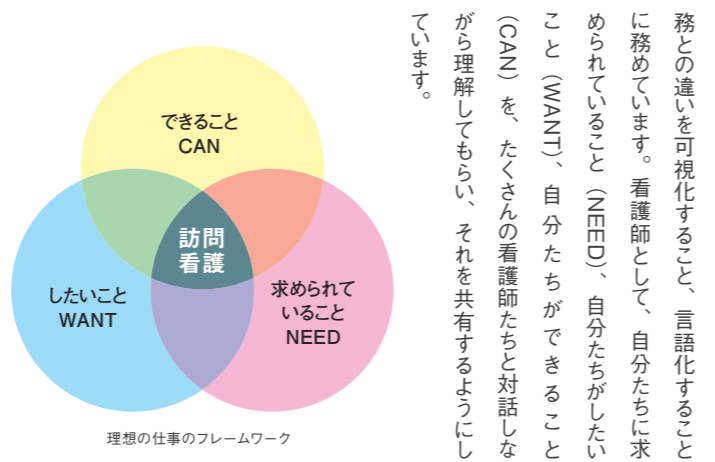
人の育成は、手をかければかけたぶん、必ず成長します。特に「訪問看護とは」を伝えるにはまだまだ不十分な今、分かるように伝える工夫は必要で、病棟勤務、外来勤務の看護業

れを共有しました。この先どうしたいのかといった彼が目指す未来のために、先輩たちは何ができるのかに集中した関わりです。このように目標の共有があれば、効果的な育成につながります。

また、人口が少ない地域での仕事の仕方には、先輩は新人にしっかりと関わり、会話の量も増えるという良い点と、過疎地ならではの閉鎖性や情報の枯渇、密接な人間関係がうまく構築できないことなどからモチベーション低下を招くといった懸念があります。こうしたメリットデメリットを意識しながら、新卒者を即戦力にする育成を工夫することは、人材確保にあえぐ島しょ部・中山間地域に求められていることかもしれません。

同時に、地域住民のケアを受け入れる力も育てる必要があります。大崎上島町には外部から来た人を否定せずに受け入れ、安心して暮らせる地域医療にともに力を合わせようとする地域性があります。それは、1ターニングが多く、「よそ者」との触れ合いに慣れたこの町ならではの。職場と地域が手を組んで、希望の星たる若い人材を育む実績を積み重ねながら、今後、訪問看護を目指す人が増えることが期待されています。

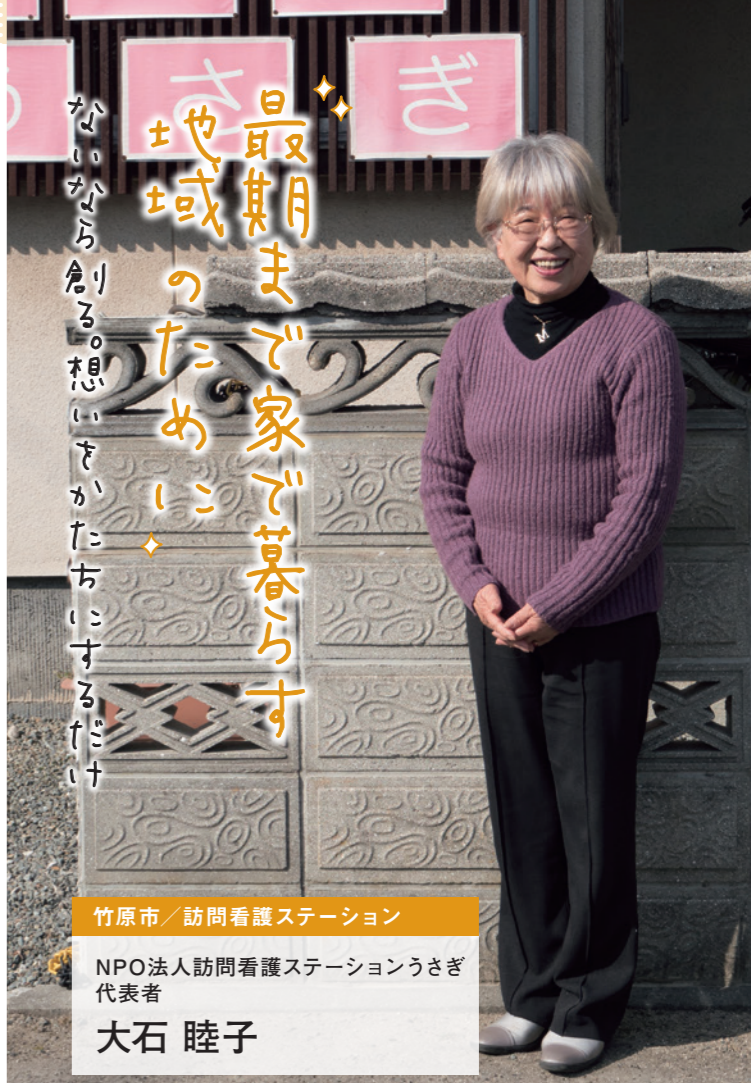
社会福祉法人大崎福祉会
訪問看護ステーションおおさき
〒725-0301
広島県豊田郡大崎上島町中野5522番地36
TEL.0846-67-5006 FAX.0846-67-5031
http://www.osakifukushikai.jp/



務との違いを可視化すること、言語化することに務めています。看護師として、自分たちに求められていること (NEED)、自分たちがしたいこと (WANT)、自分たちができること (CAN) を、たくさんの看護師たちと対話しながら理解してもらい、それを共有するようにしています。

これから、事務所の近くにあるスペースを活用してサロンを始める企画が進んでいます。誰でもいつでも立ち寄れる場所に訪問看護師がいれば、わざわざではなくついでに健康のことや日々のことを話せます。「看護するよ」と大きく構えるのではなく、住民と等身大で、同じ目標の隣人のような看護師の働き方を、このサロン通して伝えていこうとしています。

ほっと・はあとステーション
でのひら
〒737-0125
広島県呉市広本町1丁目7-40
TEL.0823-36-7284 FAX.0823-36-7286
URL http://www.luster-homecare.jp/



竹原市／訪問看護ステーション
NPO法人訪問看護ステーションうさぎ
代表者
大石 睦子

気づきからスタートした人生

「訪問看護サービスのない忠海（竹原市）で、人々が安心して家に帰れるようにしたい」。自らががんを患い、患者の立場になったことで、人の命、人の心に寄り添うために生きることを決意したという大石睦子さん。

地元である竹原市の福祉施設で相談業務に従事しながら、広島市内で「広島ホスピスケアをすすめる会」の相談員として電話対応を始めました。患者や家族からの深刻でデリケートな闘病の悩みを聞くために、医療職ではなかった大石さんは、がん療養者に対応すべく幅広く医療を学ぶために広島に通います。そしてすぐに竹原市内にがんサロン「つむぎの路」をスタートさせると、日々話っていた「忠海で訪問看護を」という願いに共感した協力者が

集まり、「訪問看護ステーションうさぎ」をNPO法人としてスタートさせました。2016年7月のことです。

ボランティアは看取りを経験したり、がんサバイバーになったことで、訪問看護の大切さを理解し、その思いに共鳴した方たちもいます。

全力で思いを前に出す

ステーション設立は、共感してくれた看護師3人からスタートしました。「うさぎ」の訪問看護師は、一人で判断するためのアセスメント力、連携やチームをつくりあげる人間力、在宅生活を維持しようとする医療人としての基礎力という3つの資質を持っているのが自慢。十分な現場経験を持ち、それぞれが考



広島市／みなし訪問看護
小椿クリニック
院長
加藤 芳朗 医師

(左)小椿クリニック院長 加藤芳朗医師 (右)磯部敬子看護師

自宅で過ごしたい気持ちに応える

高齢化が進む利便性のよくない白木町は、広島市にありながら訪問看護サービスのない空白地帯でした。三次地区医療センターに勤務していた医師の加藤芳朗さんは、多少暮らしにくくても自宅で過ごしたいという住民の思いを聞き、白木町で12年前にクリニックを開業。やがて、みなし訪問看護を展開します。

訪問看護専任スタッフの磯部敬子さんは、普段から外来と訪問看護を行き来します。クリニックと訪問看護が一体なので、日々の様子や変化を院長と共有できます。

例えば、外来に来られた顔見知りの患者さんの様子を確認した上で看護師が訪問に出掛けます。自宅での様子を確認し、戻ってすぐに得た情報や気掛かりな点を院長に伝えて指



在宅看取りの実現を目指して、中山間地域と都市部広島を行き来するなかで協力者や活動の輪が広がる

えて行動する頼れる仲間です。また、必要な資金集めにクラウドファンディング（不特定多数の人が通常インターネット経由で他の人々や組織に財源の提供や協力などを行う仕組み）の活用を手伝ってくれ、「うさぎ」の今までにない新たな取り組みにもチャレンジしました。

事務所は、利用者のご家族から提供していただき、内装はみんなの手作業で整え、持ち寄りの備品で準備しました。当然、地域の医療介護関係者も一緒に動いてくれるようになりました。

人口2万人の竹原で、最期まで家で暮らすことを実現させたのには、こうした地域のアクティブな動きがあったこと、多くの協力者というネットワークがあったからこそ。「気づけば人生が広がっていました」と言います。

看護職ではない大石さんの活動に多くの人々が動いたのは、医療と生活の両方を支え、暮らしに寄り添いたいという実体験からくる

テーションの提供ができたり、介護報酬がみなし訪問看護より高く設定されています。ただ、人材確保が困難な中山間地域では、経営的に成り立ちにくいといわれています。訪問看護の事業収支は確かに難しく、小椿クリニック全体の収支をとらえて経営バランスを取っています。

訪問看護の中で報酬の対象にならない業務が当然出てきます。例えば、利用者の気持ちに寄り添いじっくり本音を聞いたり、経済状態をみてできるだけ負担の少ない支援方法を考えたり、夜暗くなつてからが心配だからとちょっと立ち寄りてみたり。ヒアリングができていから、必要のない検査や飲みにくい投薬を防ぎ、治療効果を高めることもできます。小椿クリニックではこうしたソーシャルワーカーのような関わりをする、医療を専門とするキーパーソンが連携のハブの役割を果たし、安心できる在宅生活を実現させています。

今まで生活面を支える役割は、民生委員や町内会長など、地域の顔役が担っていました。今後、医療面の支援が必要な人も増えてくる中で、利用者の生活を支えるのは、かかりつけ医とネットワークのよい看護師の役割が大きく、関係多職種へつなぐ機能が有効です。

クリニックがみなし訪問看護を運営するのは、何より在宅生活を支えるという目的を果たすためであり、同時に、磯部さんのような看護師が柔軟にフォローすることで、外来診療の効率的な経営にもつながります。

訪問看護の未来を描く

これからの訪問看護は、人生最期のときは家にいたいと願う人が、ベストな状態で在宅でいられるようにしたいもの。それには多くの看護師や、町の人たちのさらなる協力が必要です。地域住民ももっと医療や福祉、そして自分の看取りについて学んでいく必要がありますし、地域にあるサービスや資源をうまく利用していく能力も培っていく必要があります。

現在「うさぎ」では、相談事業、ボランティア養成講座、年1回のシンポジウムを開催していますが、これからはいろんな人たちが出入りできるサロンをつくらしていきたいと考えています。

「まだまだこれからやりたいことがたくさんあります。ないものを悔やんでも仕方がない。ないなら創る。それだけです」と大石さんの夢は広がります。

NPO法人
訪問看護ステーションうさぎ
〒729-2314
広島県竹原市忠海床浦1-6-9
TEL.0846-26-3433(代) FAX.0846-26-3440

地域医療を整えるには

都市部の地域医療とは違う中山間地域のかたちがあります。在宅生活を実現するためには、訪問看護の機能がますます大きくなります。ところが、訪問看護のノウハウがないことや報酬の低さが壁になり、訪問看護の空白地帯がまだまだ解消されずにいます。みなし訪問看護は実施主体がノウハウを共有する機会がなく、手探りによる非効率な仕事や負担感ばかりの仕事になる場合もあり、急いで組織化を図り経営と運営を支援し合う必要があります。

今後、在宅生活は医療リスクの高さと孤立化が課題です。誰ともつながっていない人は必要なケアを受けることができず、気付けず深い状態になります。それを防ぐためにも生活面のキーパーソンとあわせて医療、健康面のキーパーソンの充実を目指していかなければなりません。

「まだまだできることはありません。それをひたすらやるだけです」と加藤院長。「若いころに思い描いていた仕事ができ、まさに天職！」と磯部さん。二人のタッグは地域に安心感と温かさを生み出しています。

小椿クリニック
〒739-1521
広島県広島市安佐北区白木町下小椿 4275-1
TEL.082-810-6700 FAX.082-810-6300
URL http://www.kotsubaki.com/

中山間地域の挑戦

「サテライト」の挑戦
在宅生活を望む地域の要請に応える



庄原市／訪問看護ステーション・サテライト
庄原市立西城市民病院
西城訪問看護ステーション 元管理者
増原 千代美 看護師

安心して家に帰れない

人口減少が続く中、合併前から住民同士が支え合おうと健康づくりに取り組んできた庄原市西城町と東城町。しかし、入院のできる医療機関がなく、また交通手段がなく通院が難しいことから、治療を終え退院しても自宅で安心して生活できる体制が十分に整っていませんでした。そんな時、地域包括支援センターから西城市民病院へ「この東城町に訪問看護がない。やつてもらえないか」と相談が。それを受けたのが、西城町で訪問看護師として勤務する増原千代美さんです。

確保や事業所経営など、多くの課題があります。病院内で協議し、東城町でステーションを開設するよりも出張所のような機能の「サテライト」であればなんとかなるのではないかと判断、すぐに開設に向けて動き始めます。24時間体制整備やスタッフの増員、人員配置など内部調整を整えつつ、東城町内の医療機関へのあいさつ、居宅介護支援事業所、社会福祉協議会などの連携をへて、平成27年にサテライトを立ち上げました。

中山間地域ならではの工夫

西城町と東城町の距離は約30キロ以上、車で片道1時間近くもかかります。約1万人の住民のうち高齢化率が50%に近い地域で、訪問看護を開始するにはスタッフの動きを分担する

地域を支える連携とチームづくり

ケアに向き合う熱意と使命感を呼び起こせ



山県郡北広島町／みなし訪問看護
北広島町雄鹿原診療所
所長
東條 環樹 医師

中山間地域の強みを生かす

総合病院で消化器内科の医師として勤務した後、自治医科大学の義務年限中に八幡診療所（雄鹿原診療所より約10km）に赴任した東條環樹さん。これをきっかけに地域医療に興味を持ち、もともとアウトドア好きで北広島町の豊かな自然もとても気に入ったそうです。

中山間地域では、広範囲な地域に生活を支える社会資源が少なく、生活のしづらさは確かにあります。医療も同様の状況ですが、今、芸北ではこの雄鹿原診療所が中心になって動いて、ネットワークづくりを進め、医療介護連携がともスムーズです。

一方、都市部では、利用者一人ひとりがかかりつ

け医、訪問看護、ケアマネジャーなど関係機関が異なります。関係機関との良好なコミュニケーションのために糸口を探りながらの仕事になり、多少ストレスになることもあります。それを考えると、ここにはすでに連携の経験を積み、気心が知れている、お互いを理解し合う関係性があります。「安心して在宅生活を継続するための資源は確かに必要ですが、あればあるほど良いというものではありません。地域医療の推進にスムーズな連携が組めるかどうかが大切」と東條さんは言います。

関わる人々を変える

北広島町はすでに在宅看取りの事例が多く

ことなどが必要でした。

西城訪問看護ステーションには、訪問看護師4人と理学療法士が1人在籍し、月曜日から金曜日、24時間体制で勤務します。そのうち、専任看護師が庄原市役所東城支所を拠点にしたサテライトに勤務し、移動距離と時間の効率化を図りました。

2つの拠点が離れているからこそ、情報共有を重視しました。隔週開催するカンファレンスには両所のスタッフが西城町のステーションに集合。増原さんは「西城と東城という広いエリアだとも目が行き届きにくくなります。だからこそ、管理者は見落としのないように、丁寧な情報の把握に努め利用者との顔の見える関係をつくること大切」と言います。

スタッフの確保も課題です。現在、西城市民病院に勤務する看護師の異動によって配置されています。病棟経験があることで、すでに入院患者、外来患者とも顔見知り。日々の生活への



今井智之地域支援部課長(左)と増原千代美看護師(右)

なりました。医療だけではカバーしきれないため、ケアマネジャーや介護職の関わり方や役割の明確化、住民自身の意識を変えることも必要です。そこで、住民対象の健康教室の後に看取りの勉強会を始めて続けていくと、当初は他人事だったことを自分のこととして受け止めてくれるようになったそうです。また、介護施設の家族会で看取りの勉強会をすると、家族の皆さんもだんだん腹がすわってくるなど、覚悟が伝わってくるようになりました。こうした活動によって、病院死だけでなく在宅死という選択も増えてきました。

同時に、介護職には医療の知識を持つてもらったための勉強会や、看取りのケースをどのように理解するとよいのかといった、価値観、宗教観、哲学というような思想などを学ぶ丁寧な振り返りを行っています。延命とは、死とは、など、それぞれの立場の言葉で説明できるように対話を続けてきたことで、関わる人々の価値観が変わりつつある手応えがあります。

これからさらに人口減少が進みます。「今、人々の生活の延長にある死に向き合い、関係するすべての人や機関が、合意形成していきけるような、地域医療システムの再構築が必要なタイミングに来たのではないかと東條さんは考えます。

訪問看護の在り方とは

雄鹿原診療所の訪問看護ステーションは、開設の2年後、みなし訪問看護に変更しています。診療所の方に人手が必要で、訪問看護専任スタッフの確保が難しいことや、まだ訪問看

気配りや、ときには傾聴を、ときには他の医療機関との連携や福祉支援の制度へつないだりと、暮らしを支えます。訪問看護のこうした役割が担えるよう、後進の育成も進めていかなければなりません。

地域で考えるために

サテライトでのサービスが始まると、東城町内の医療機関とも連携が取れるようになり、やがて在宅看取りも増えてきました。以前は脳梗塞によるケアが多くあったものの、最近では80〜90歳代と高齢傾向、老衰、がん、認知症などのケアが増えてきました。利用者像も変わり、多くの方が、独居あるいは日中のみ独居の方です。医療の役割、地域住民の役割、そして生活支援や介護予防の在り方など、あらためて地域で考える場が必要となりました。

こうした課題を共有するため、東城町では地域包括支援センターをはじめ、介護・医療機関、民生児童委員、消防署や警察署、地域住民とともに、勉強会、情報交換会をしています。回を重ねるごとに「退院しても家に帰れるんだ」という安心と心がまえが、家族や地域に広がりは始めました。

庄原市立西城市民病院
西城訪問看護ステーション
〒729-5742
広島県庄原市西城町中野1339番地
TEL.0824-82-2611(代) FAX.0824-82-2012

護の利用者が少なく、ステーションに登録した人しか訪問できないことも制約になっていました。みなし訪問看護はメリットもあり、主治医との連携が取りやすく、カルテの共有ができて、計画書や報告書の書類のやりとりが少なく済みます。診療業務に従事できるため運営上の効率化につながり、何より利用者負担を抑えることができました。こうしたことから、人員配置基準がなくネットワークの良いみなし訪問看護の方が、介護報酬の高い訪問看護ステーションよりもこの地域には有効だと総合的に判断しました。

このようにして、北広島町の現在とこれから在りようと、住民の暮らしに合わせ、支援とネットワークのかたちを柔軟に変えていっています。現場の努力に呼応して、自治体や地域の医療機関の熱意で地域医療が提供されることが期待されます。

「医師として、訪問看護には在宅を看るという視点で期待をしています。また、在宅を支えるチームからも頼りにされています。今後、増え続ける在宅看取りに毎日があつたね、最初もよかったねと言えるようになり向かっています。訪問看護に熱意と使命感を持ってもらえるとうれしいです」

北広島町雄鹿原診療所
〒731-2431
広島県山県郡北広島町荒神原200番地
TEL.0826-35-0119 FAX.0826-35-0056

はじめるコスト

訪問看護を
開設するために

[訪問看護業務の先輩からアドバイス]



訪問看護事業をやるうと決めたら、必要な手続きを確認しましょう。相談機関でアドバイスをもらうなど、しっかりと活用しましょう。間違いないよう、丁寧に進めていくことがポイントです。

1 訪問看護ステーションの開設手順

1 法人を設立する

訪問看護事業を始めるには、法人格が必要です。法人登記には、医療法人、営利法人（株式会社）、社団・財団法人、社会福祉法人、地方公共団体、協同組合、NPO法人などがあります。事業所の定款の事業目的欄に「介護保険法に基づく訪問看護事業」など、必ず入れる必要があります。すでに法人がある場合は、その文言を追加して定款変更を行います。

4 人件費

看護師、准看護師、保健師を常勤換算で2.5人以上（うち一人は常勤職員）を雇います。管理者が常勤の看護師であれば、最低2人の看護職員が必要となり、さらに理学療法士や作業療法士、事務職員なども雇用すると、それだけの人件費が必要です。賃金のほか、社会保険料をはじめとする法定福利費や、退職金積み立て、福利厚生費、研修費などの準備も考えておきましょう。

5 求人広告・宣伝費

職員採用のために募集広告を出したり、パンフレットやリーフレットを作ったり、ウェブサイトなどの立ち上げなど、訪問看護事業所を広く知ってもらうための宣伝費が必要です。パソコンで作成するのに慣れていない人がいれば自前できませんし、印刷を安く済ませる方法もあります。またウェブサイトは無料でできる方法もありますので、費用を抑えてしっかり広報をする工夫をしましょう。こうしたことは、中小企業庁や商工会議所など、創業支援の相談窓口で教えてもらえます（株式会社のみ）。

6 指定申請手数料

新規に事業を始める場合の申請手数料は、3万円程度です。

3 協力者・専門家の力を借りる

新しく事業を始めるときは、慣れないこと

ます。法人格を取得できたら、次に設置要件を確認していきます。

2 事務所を設置する

訪問看護ステーションの事務所を準備します。事務所は、独立した事業所でも病院等の建物の併設でもよいのですが、事務所は専用区画であることが必要で、併設事業所等の機能や会計・経理と分離などの要件があります。また、事務室やスタッフの場所と相談室は、パーテーションなどで仕切り、プライバシー保護に気をつけなくてはなりません。そのほか倉庫、洗面所、洗濯場、さらに感染予防のための汚物処理室や消毒のためのスペースなどを確保します。駐車場も必要です。事務所の契約者は必ず法人名で行いましょう。

3 必要人員を確保する

訪問看護のスタッフとして、人員基準にある看護師を雇います。雇用契約書を取り交わすなど、採用時の手続きを社会保険労務士のアドバイスをもらいながら進めます。このとき、看護師の資格証を提示してもらいましょう。また、保険請求を行うための事務職員の雇用も必要です。

4 事務所の備品を準備する

事務スペースの机・椅子、相談室の机・椅子、パーテーション、パソコン、プリンタ、鍵がかかる書棚、電話機、FAX、手洗い場、移動手段の車両などです。

の連続です。分かりにくい法律用語や手続きで、「よしやろう」というモチベーションが下がってしまうかもしれません。そんなことでへこたれることはないと思いますが、スタート以前で慌ただしくなるようであれば、力を貸してくれたり、アドバイスをくれる協力者や、その道のプロといった専門家の力を借りてみましょう。

すでに訪問看護事業を立ち上げた看護師仲間や、訪問看護業務に就いている人からは実務的なアドバイスももらえます。設立手続きや窓口での具体的なやりとりなど、経験者の話はとても役に立ちます。また、実際の業務のローカルルールや、知らない損をする情報ももらえたりしますので、困ったときには協力してもらいましょう。

専門家として、上段にある創業支援の相談窓口を活用するとよいです。社会保険労務士、会計士・税理士などからは各種手続きや会計のアドバイスをもらえますし、中小企業診断士

5 指定申請書類を準備し提出する

都道府県等から指定を受けるために申請をします。申請書類は次のようなものがあります。あらかじめ、県や市の担当課と事前協議をしておきましょう。電話をして協議の予約をすると、よいかもしれません。手続きの情報をもらった書類の不備を確認してもらったり、申請の期日や下りるまでの期間も確認しておく準備のタイミングが分かります。また指定申請のほかに付随する他の申請（被爆者一般疾病医療機関指定申請、生活保護法指定介護機関指定申請、労災保険指定訪問看護事業者指定申請など）もありますので忘れずに。さあ、指定を受けたら、いよいよ事業開始です。

【みなし指定の場合】

保健医療機関が訪問看護サービスを実施する場合には、指定申請を行う必要はありません。ただし、もとの指定の取り消しがあったときはみなし指定も効力を失います。

必要な申請書類

指定申請書／訪問看護・介護予防訪問看護事業所の指定にかかわる記載事項／定款のコピー（原本証明が必要です）／登記事項証明書／従業者の勤務体制および勤務体制一覧表
役員名簿／欠格事由に該当していない旨の誓約書／組織体系図／管理者の資格証のコピー／訪問看護員の資格証のコピー／事業所の写真（外観・内観）／事業所の平面図／事業所の案内地図／事業所が賃貸である場合はその賃貸借契約書のコピー／運営規程／資産の状況を証明する書類／ご利用者の苦情処理を講ずる措置の概要／損害保険加入を証明する書類／介護保険給付に係る体制等の状況一覧表 など

やコンサルタントからは、費用をかけずに広報や求人活動をする方法や、法人理念、ビジョンを明確化するためのアドバイスがもらえます。プロの力を借りるほうが早くて確実です。

さあ、いよいよ業務が始まります

申請が下りるまでの期間に、訪問看護ステーションのPRをしたり、医療機関や居宅介護支援事業所などへ、パンフレットを持ってあいさつ訪問に行きましょう。エリア内の関係機関とはスムーズに連携できるようにしておくことで、利用者の依頼や迅速な対応につながります。

また、この期間には職員の研修も早期から行い、訪問看護サービスの質を担保しておくことも忘れないようにしましょう。

Check

《 参考資料 》



訪問看護業務の手引 社会保険研究所

訪問看護ステーションが行う介護保険・医療保険の訪問看護業務の進め方、ステーションの開設から、訪問看護の実施、費用の請求（レセプトの作成）まで、分かりやすく解説しています。よく使う様式から根拠となる法令・通知まで、業務に関連する資料を網羅しています。

2 訪問看護を開業するときの資金

1 会社設立費用と申請費用
法人を設立するために、法務局などへ登記や申請の手続きが必要です。法人格によってそれぞれ登記にかかる費用が違いますので、あらかじめ確認をして進めましょう。複雑で煩雑な設立手続きに戸惑うときは、司法書士などに相談するとよいでしょう。そのほかに新規に事業を始める場合の申請手数料が必要です。

2 物件取得費

新規に事務所を構えるためには、賃貸料と敷金、礼金、管理費などが必要です。広さの基準は指定されていないものの、看護職員の休憩室の場所と相談室やトイレ、手洗い場などのスペースがある事務所が必要です。また、出入りのために近隣に駐車場が必要ですので、物件探しは前もって進めておきたいですね。

3 備品や車両など

備品として、看護職員の机や椅子、相談室の机や椅子、電話、FAX、パソコン、プリンタ、鍵付き書庫、自動車、看護業務に必要な血圧計、体温計、ガーゼ、感染防止の消毒液などの消耗品が必要です。自動車や自転車、バイクなどは購入するほか、リースや借り上げという方法もあります。

人財のコト

訪問看護師を
募集するために

[訪問看護業務の先輩からアドバイス]

在宅療養者の生活を支援する訪問看護。その力を存分に発揮することで、療養者・家族、さらには関係多職種からも頼りにされる存在となっています。
在宅療養者の増加に対し訪問看護師が不足する今、人材確保の取り組みは、訪問看護事業の健全な運営・経営のためにとっても重要です。また、訪問看護の仕事をもっと知ってもらうことも必要です。

訪問看護の人材不足に悩む島しょ部、中山間地域を多く抱える広島県でも、こうした地域でも人材確保、育成に成功しているところがあります。ここでは、「人材を集める」より「集まる」ための具体的な考え方、手順について確認します。あなたご自身や、仲間とともに知恵を絞り、アイデアを出して、できることから進めてみてください。



どんな看護師が必要なのか？

まず、募集する看護師の目標値を具体的に決めることから始めます。訪問看護ステーションの設置要件に管理者1人（看護師、保健師で看護職員との兼務可）と、常勤換算2・5人以上の職員（うち1人が常勤）を満たしていることが前提です。みなし指定やサテライトの運営にも、専任、兼務職員含めて何人必要かを考えます。

次に、業務量の予測を検討します。エリア内地域の利用者数や今後の推移、同エリアで活動する他の事業所などを把握し、それを踏まえてあと何人くらい必要かを考えます。そして、現状の職員の状況（年齢や経験値など）や引退の時期など、同時に経営状況を検討して、目標売上金額と人件費のバランスを考えた常勤パートか、看護師をどれだけ採用したいのかなど、今後の見通しを決めます。

どんな看護師に来てほしいのか、目算を立てておきます。新卒から20代、30〜40代、50代以上、定年退職前後の方など、おおまかな年代は決めておきましょう。世代ごとに働く理由が違い、求人広告やお誘いの表現方法が変わってくるためです。

また、救命救急の経験や教員、介護施設勤務や行政機関の経験など、職歴、保有する資格はあるにこしたことはないものの、少なくともほしい経験値の見当もつけておくとういことです。

「とにかく誰でも何人でもいい。資格があれどりのウデにかかっています。最初から多くを望んではいけません。医師との連携はもちろん、多くの医療・介護職とのチームで仕事をするために、しっかりとした医療知識や技術を土台に、コミュニケーション能力や人間関係構築力、情報管理、マネジメント能力も必要です。そして、経営者はこの職場ではこういうことをしよう（これがビジョン）一緒に頑張ろうね！と背中を押す（研修や指導）、ときに手を引いてあげていれば必ず人はついてきます。人材の確保と育成に困らない事業所として、頑張ってください。

募集の方法あれこれ

必要な看護師像と人数が決まったら募集をかけます。募集方法は、ハローワーク、学校の募集案内、事業所のウェブサイトを、看護協会「広島県ナースセンター」、求人広告雑誌、求人インターネットサービス（無料版・有料版）などがあります。

特に中山間地域で比較的有效なのが、紹介です。職員の知人や学校の先生からの紹介、また利用者家族からの紹介も少なくありません。いい仕事をしてくれた、いい職場だからと紹介してもらえるのと離職率も低いので、口コミはおすすです。

採用面接時のポイント

連絡がきて面接を迎える前に、履歴書を確認します。採用後のためにどんなことを確認していますか。処遇、給料、福利厚生、休みの取り方などはもちろんですが、お互いが希望する仕事の仕方や不安の解消について、次の点を確認しておきましょう。

面接に来た人は、少なからず不安を持っているものです。一人で訪問することや難しい場面での不安などを聞き、研修体制が整っていることなど、不安を解消する説明

が必要です。

特に結婚や出産などで現場を離れた離職期間の長い方は不安も大きいもの。親身になって話を聞き、看護協会などで復職研修や復職経験者からのアドバイスがもらえることなどを伝えましょう。

事業所の理念を説明して、理解してもらうことも重要です。法人理念は、仕事の方向性や価値基準そのものです。具体的に何を目標としているのかといったビジョンを説明し、それを一緒に実現する「スタッフ像」について説明します。面接で採用の見通しが立ったなら、どんな経験が積めて、どんな資格を目指すことができ、どんな専門性が得られるのかなど、その人の将来と一緒に語るような話をしましょう。

育成のヒント

採用が決まれば早速、育成を始めます。研修は採用時研修で職場のルールを伝え、安心できるまで先輩が同行訪問します。日々の振り返りミーティングや定期的なケースカンファレンスで、知識を習得したり関係機関のローカルルールを知ったりするのであらかじめ計画にしておきましょう。現場に慣れるとスーパーバイズを受け、効果的に成長する道筋をつくりやすくなります。慣れやマンネリ、その人しかできない個人ワザに偏らないように、リフレクション（振り返り）をしていると離職することなく勉強し続け、後輩の面倒をよくみて

Community Nurse Company株式会社
代表取締役 矢田さんから

募集活動は一度だけでなく継続的に行っています。ここ雲南市は思いっきり田舎ですが、20代の人たちもたくさん関心を持ってくれます。関心を持たせるためには、動いている人がかっこいい！といういきいきしたイメージを出していくことが大切。また、中・高校生、インターン生に、看護師の資格を生かした仕事の価値を早いうちに伝えるようにもしています。

まとめ

訪問看護業務のよしあしは、看護師一人ひとりに

ワンポイントアドバイス

ほっと・はあとステーションでのひら
統括所長 松井さんから

口コミは絶大です。私たちがいい仕事をしていると、病棟勤務に疲れていると言う知人の看護師に「ここ、いいよ」と教えてもらえていたりします。職場は訪問介護や居宅もありある程度人数もいるので風通しもいいし。紹介してもらえるような職場づくりが結局人材確保につながるみたいです。

Check

ターゲット別 心に響く！キーワードと職場づくりのヒント

新卒～20代

- ▶ 専門性をぐっと極める！
- ▶ あなたが目指す看護がここにある
- ▶ 思いっきりワクワクする仕事

ポイント
・知識と実践の基礎力を上げる
・メンターの丁寧なサポート
・キャリアビジョンを示す

30～40代

- ▶ さらなるステップアップを目指して
- ▶ 育児と仕事の両立を
- ▶ じっくり向き合う新しい看護

ポイント
・福利厚生の充実
・産休育休、介護休暇の取得
・時間の融通
・お休み中の情報提供とプランへの配慮

50代～

- ▶ 到達点としての看護
- ▶ あなたのキャリアを生かす仕事
- ▶ 長く働き続けるために

ポイント
・勤務日程、時間の調整
・定年延長など継続勤務への配慮
・柔軟な働き方
・ペース配分

「経営」と「運営」のヒント

リーダーがするコスト

[訪問看護業務の先輩からアドバイス]

経営者、または管理者になったあなたは、これから経営と運営をしていくことになりませんが、実はこのふたつ、似ているようで違います。収益を最大化するために、人や資金を活用するというのが「**経営**」で、目的や機能、仕事をより効率よく達成していくために、人や資金を活用するのが「**運営**」。リーダーはこれらを理解しバランスよく進めていくことが大切です。ここでは、リーダーが知っておくこと、取り組むことといった仕事のヒントをご紹介します。特に中山間地域では、経営効率を上げていく工夫が不可欠です。改めて確認をしておきましょう。



中山間地域ならではの3つの工夫

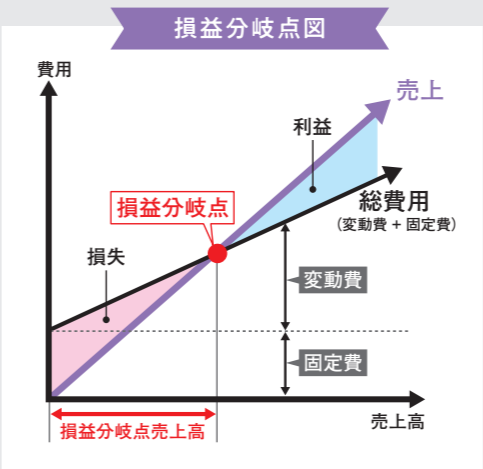
たとえ医療は利益追求ではないといえ、利益がなければ人件費や運営費は支払えません。収支のバランスを取るために、まず「損益分岐点」を知っておきましょう。

継続的に訪問看護を利用してもらうには、訪問看護事業所やスタッフが、地域住民に選ばれている存在であることが大切です。それは、地域住民と顔見知りになることから。例えば、サロンやカフェを開設したり、ブログや広報紙を作ったり、町の保健室などといった健康相談や、健康体操など、スタッフと地域住民が日常的に知り合える場や楽しく明るく会話できる機会をつくるのも効果的です。住民にとって、わざわざ受診するまでもないが気軽に掛かりな症状があったときや、医師に話にくいことなど、看護師からのアドバイスは助かります。すでに訪問看護を利用した経験があるご家族は、訪問看護とは何かが分かってくれている人。こうした理解者と信頼関係をつくっておくと、「この人にお話ししたい」と名指してもらえらる訪問看護として認知度が上がります。それは、訪問看護の早めの利用にもつながります。重度化してからの訪問看護は家族の経済的な負担も大きくなり深刻ですが、予防段階での利用であれば余裕が生まれ、回復も早くなるでしょう。

継続的につながりを持つための工夫として、密な人間関係をつくり、顔見知りのお付き合いを良しとする中山間地域ならではの方法です。もしかすると都市部ではまた違うかたちになるかもしれません。方法はいろいろ、ご自身に合ったやり方で進めていきましょう。地域住民に愛される訪問看護のファンづくりはリーダーの役目です。

毎月一定額が支出されるものを「固定費」（基本給や事務所の家賃、駐車場代など）、毎月の利用者数によって変動がある費用を「変動費」（残業代やガソリン代、材料費など）といいます。利用者数が多ければ変動費は増え、利用者数が少なくなれば変動費は減ります。収入と支出が同額になる額を損益分岐点といいます。その額を下回ると赤字になり、上回れば利益が出るという意味です。このバランスを取ることが経営と運営ということになります。

毎月どのくらいの人件費がかかり、訪問している利用者数や新規受け入れ人数、休止した人数など、具体的な内訳も把握しておくべきです。



業務効率化を図ろう

1 移動ロスをなくす工夫
中山間地域や島しょ部では、1訪問当たり

医師の理解と協力は不可欠

訪問看護事業所の運営には、地元の医師の理解と協力は欠かせません。実は、開設した事業所が成長するとき、「医師が育ててくれる」と多くの方が話しています。在宅医療を守る医師側の、患者さんの診療のその後をうまくつないでほしいという願いでもあるようです。

頻繁に受診しにくい中山間地域では、患者の日々の暮らしが気掛かりです。往診や訪問看護までは必要ないが、気になるときは「ちょっと見に行つてあげて」など、看護師に指示することもあっていいでしょう。医師として患者が普段どうしているのか、薬は飲んでいるのか、その後の調子はどうかなどうかがうことが、暮らしの状況を把握したいところに、訪問看護が素早く状況を伝え、必要なケアにつなげるためのものです。そのために、医師はどんな情報がほしいのか、それはどんなタイミングがよいか、どのように連絡するのがよいかなどを改めて確認しておくことで無駄なく必要な情報共有ができます。

新たに訪問看護をスタートするときは、特に医師から学ぶ姿勢や基本的な業務は理解している、手順や進め方は地域それぞれです。住民の考えや今までのやり方といった規範にとった医療もあります。スムーズに指示書を書き、連携を進めるためにも、理解と協力を得る働きかけをしましょう。

移動時間（距離）が長くなり、事業としての効率性が低下します。利用者の住まいに合わせてルートや拠点を考えても、随時変わっていく利用状況に合わせて、移動ロスはつねに発生してしまいます。少しでもロスを軽減するためにルートの最適化やサテライトの活用が有効です。

「サテライトとは?」
「指定訪問看護事業所」の指定は、原則として事業所ごとに行うものとしているが、例外的に待機や道具の保管、着替え等を行う出張所等「従たる事業所」(いわゆるサテライト)について、要件を満たすものについては、主たる事業所に含めて指定できる。

2 オペレーションの工夫

また、業務や仕事の運営や管理、手順といったオペレーションの工夫をして業務効率化を図ることも大切です。可能な範囲で直行直帰も検討したり、ICTを導入し活用する、そして、地元の医療機関と密な連携をして役割分担したり情報共有をしておくことで、ムダを省き、事務時間の短縮ができます。

3 情報共有の工夫

さらに、職員間の情報共有は、ケアの質に直結します。よくある「普段からできるだけ情報共有を」というルールだと、できるときとできないときがあり、共有する情報にばらつきができ非効率。それより「毎週〇曜日〇時からミーティング」といったルールを決めてしま

4 そもそもリーダーとは?

事業所の収益を上げ、目指す訪問看護を実現することが、経営者、管理者というリーダーの役目です。
労働条件の整備、財務管理、人材育成を含む組織運営、利用者の確保、他職種事業者との連携など、多くの課題に対処しなければなりません。また、多様な利用者ニーズに対応しようとすると、事業規模の拡大や多角化を図る必要性もあります。とはいえ、そのような様々な経験を積んだ看護職員は少なく、リーダーは長くフレイングマネジャーとなつてしまっています。

リーダーの世代交代をスムーズに進め、スタッフが長く勤務するためには、経営者、管理者というポストを魅力的にすることや、若手看護職員を積極的に育成する必要があります。スタッフや関係職種との共感と、ネットワークを広げ、協力を巻き込むために、理念を伝えるプレゼンテーションスキルや、スタッフのモチベーション向上や利用者との信頼関係をつくるコミュニケーションスキル、単に指示命令したことを行うだけの「作業」と、自ら工夫してよりよいものを創りだす「仕事」との違いを説明し成長を促すマネジメント能力など、身に付けておきたいことはたくさんあります。

こうした組織の成長が訪問看護の成果となり、一つひとつの手応えを確認することで、リーダーだからその満足感や充実感を味わうことになるのではないのでしょうか。目指すリーダー像に向かって歩を進めてほしいものです。

2 継続的に使ってもらおう

中山間地域における訪問看護の利用者は、遠方の総合病院に入院治療した方の退院支援の引き受け、在宅生活を続けてこられた方の病状悪化に伴う居宅介護支援事業所やクリニックからの依頼というケースが多いのではないのでしょうか。利用者が訪問看護への問い合わせをするということはまれかもしれませんが、

このように訪問看護ステーションは「ご依頼を待つ」という姿勢になります。しかし経営上、利用者確保は事業所の安定した経営と成長にとっても重要です。売上につながり、人件費につながり、サービスの質や今後の業務展開につながります。戦略的に利用者確保に動きまわさつたり、定期的なケアマネジャーやクリニックに紹介してもらおうのを期待しているだけでは不十分

人との
かかわり方を
学んだ

家族のあり方を
学ぶ機会

「自宅で
自分らしく生きる」を
支える醍醐味

これからの生活と
生命の質と一緒に
考え支える

医療と介護の
両面から活動できる

その人の人生に寄り添う
「看護」の意味

「何かをしてあげる」
ということではなく
思いに寄り添い
共に歩んでいく看護

訪問看護で こんないいコトありました♪

同じ志を
持った仲間、
多職種

職種や所属は
違っても頑張っている
人々につながる

励まされたり、
力をもらったり

みんなと一緒に
頑張ろう！
という気持ち

経験が生かされる
よろこび！

人とじっくり
関われる！

多くの人との
出会いが
何よりも宝もの

自分の居場所を
見つけた

仕事の
おもしろさを
実感した

訪問看護「ゼロ」の地域をゼロに！

広島県訪問看護ステーション協議会

〒722-0393 広島県尾道市御調町124 (公立みつぎ総合病院内)

お問い
合わせは
お気軽に

0848-76-1111

FAX 0848-76-3002

URL <http://hiroshima-houkan.net/>

広島県訪問看護ステーション協議会

検索

